



# 碧南ロータリークラブ週報

第2172回例会 平成15年4月16日(水) 晴、最高23℃、最低11℃

- 会長 長田 昌昇 ● 幹事 平岩統一郎 ● SAA 亀山 裕一
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 碧南市源氏神明町90番地  
TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100  
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>  
E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)
- 会報委員 加藤知彦・竹下 豊・竹内光博・新美惣英



- 斉 唱  
ロータリーソング「今日も楽し」
- 本日のメニュー  
和風弁当 大正館
- 本日のお客様  
卓話講師  
農事組合法人 光輪 理事長 熊崎 巖 氏



## 会 長 挨拶

先週の土曜日に市の植木市があり、その場で感謝状を頂いて来ました。またアラブの話ですが、アラブには「プロッド・マネー」という言葉があり、日本語では賠償金と言えば良いのでしょうか。相手を傷つけたり殺したりした場合、当然法律により罰を受けるわけですが、相手にプロッド・マネー即ち賠償金を支払い相手が納得すれば罪がまぬがれる場合があるようです。友人の話では、15年ほど前クウェートでフィリピン人のメイドが、雇い主の父親と息子に性的暴行を受け、それを知った母親が嫉妬からメイドを殺しました。メイドが担ぎ込まれた病院の看護婦がたまたまフィリピン人で彼女が大使館に連絡し事件がおおやけになりました。看護婦が大使館に連絡しなければ、事件にはならずウヤムヤになってしまうそうですが、結果、王様がプロッド・マネーを遺族に支払い、雇い主は罰を受けることなく決着したそうです。

一方ある石油会社に勤務するアメリカ人のエンジニアが、社宅の敷地内で同じ会社に勤務するアラブ人の息子を車で撥ね、運悪く死にました。アメリカ人は当然保険に入っており賠償金即ちプロッド・マネーで解決しようとしてしました。またアラブ人もアメリカの大学を出ており、又同じ会社に勤務している立場上、賠償金を受ける事にしたそうです。しかし、アラブ人の親戚、一族郎党がアラブの格言通り「殺人に対しては復讐する義務がある。もしも金で解決すればお前は一族ではない。恥を知れ。」と強く罵られたそうです。その後、アラブ人は約二年間アメリカ人の娘を轢き殺すチャンスをおねらい続け、結局轢き殺したそうです。その時彼の一族郎党は「正義は達成された。お前は立派である。」と褒め称えたという話です。そのアラブ人がその後罰せられたという話も無いそうです。

やはりアラブ人は「目には目を、歯には歯を」の世界のようです。念の為クウェート又サウジの自動車保険の賠償額は裁判所で決められた額になっており無制限のようですが、実際はモスLEMに対し約300万円、モスLEM以外は150万円だそうです。ちなみに我々日本人の場合仏教徒の、無宗教と見なされ50万円だそうです。

モスLEM以外とはクリスチャンとユダヤ教をいうそうです。我々仏教徒がアラブの国で撥ね殺されても50万円です。こんな執念深い民族と戦争しているアメリカはどうなるのでしょうか。

## 幹 事 報 告

近隣クラブ例会変更等は、お手許の資料の通りです。(詳細は各クラブにお問い合わせください)

4月27日に開かれます地区協議会のご案内を申し上げます。分区会の部屋割りが若干変更になりましたので、ご案内を改めてお手許のほうへお届けさせて頂いております。お間違いなきようお願いいたします。そして、4月27日当日は、8時20分に当会議所をバスが出発します。

## 委 員 会 報 告

### 〈出席奨励委員会〉

総会員数 77 名 (内出席免除者 15 名) 出席者65名	
出席対象者 54/62名	出 席 率 87.1%
欠席者12名(病欠者1名)	前々回修正出席率 100%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

### 〈ニコボックス委員会〉

- 永井 一君 碧南ロータリークラブ創立45周年記念行事の実行委員長の指名を受けましたが、私の力不足で御迷惑をお掛けすると思いますが、会員の皆様の御協力を得て支障なくできること願っています。よろしく願います。
- 犬塚 敦統君 3月13日、初孫誕生、女の子です。忘れていました。
- 岡島 淳一君 市制55周年記念式典で市政功労表彰にあずかりまして恐縮して居ります。
- 岡島 淳一君 去る3月25日の市と会議所主催の工場見学会に定員を上回る55名の方に参観加をいただきました。有難うございました。
- 長田 昌昇君 市の植木市で感謝状を頂いて来ました。
- 小笠原良治君 温故知新。ありがとうございます。仕事ができず電話番をしております。
- 尾崎 琢美君 本日の講師熊崎先生を紹介させて頂きます。
- 早退10件 合計 44,000円

## 卓 話

ただいま紹介いただきました熊崎です。私は下呂の少し向こうの萩原町で生まれました。最初の頃は微生物という世界は全然分からなくて、堆肥で生産すればというようなことから始まりました。農林技官であった露木先生に出会ってから、自然を見ながら、自然の生き様というか、自然の流れというものを学びました。それから後に、微生物の勉強をしました。それを勉強していた頃には、すでにアメリカでは微生物の事を言っておりました。私達が気付かなかったという所に問題があったと思います。私はこのEM菌に出会ってから、自分の人生の中で1人でも多くの方に、これを勧めていけばいいと思って、小さな会社ですけれども、兼業しながら勉強しておったんですけれど、7年程前に思い切って、このEM菌の代理店の指導に入っておりましたけれども、会社を辞めまして、今まで学んだことを人様に伝えていきたいと、やってまいりました。その間に海外の人達には15カ国位の人に指導をさせてもらいました。特に、畜産放牧はEM菌と言ってもEM菌の幅は広いものですから、農業から畜産から建築関係から、いろんな分野のセラミックスまでにまで応用をしていますから、あまりにも分野が広いもので、畜産やる人がなかったものですから、僕は畜産の方に専念しまして、北は北海道から南は沖縄までの人達にも指導させてもらったんですけれども、その点はある程度効果が出てきました。

EMと言っても非常に幅が広いので、一口には言えませんが、今世の中で一番大変になってきているのは、これからは環境問題が非常に大きな影響を与えるというようなことが言われております。環境を良くするという時に、例えば知多半島の例で言いますと、あそこに牛糞が集結します。そうすると、あの牛糞をあのまま使っていると地下浸透してきます。その廃液が、地下浸透

してくると、そこから出てくるのが亜硝酸態窒素という、食べ物にも入ってくるわけなんです、こういうものが地下浸透して海に出て行く。その関係が有ったり、又大変な雨が降ると、それが流れて行って、海に直接入り、障害がおきてきます。けれども、この堆肥をいい堆肥のひとつは亜硝酸の堆肥にするのか、簡単に言うとアミノ酸態窒素の堆肥にするのか、との違いで変わってきます。そこを、私はモデル的にやりたいと思って今始めている訳なのですが、生牛糞を持ってきて、広げた時は臭いでひどいんですが、それにEM菌をかけちゃうと次の日は臭いが収まる。というようなことまで実際にやっております。量も普通じゃないですね、ものすごいトン数入れます。

けれども、それを入れてそしてそこで中にすきこんで、そしてそこから雑草を生やします。雑草が亜硝酸態のものを吸着させてそして出てきた大根がすばらしいおいしい大根になるということをやっております。

これは自然農法をやっている、雑草を応用した自然農法のあり方というのは僕だけしか今のところやっていないと思いますが、この雑草の力というのは非常に重要な力を持っております。雑草の生えないような所では作物ができませんが、雑草をいかに人間のこの我々農業やってる人の味方にするのか、という所が自然観察で学んだ世界でもあるし、そしてそれによって、いい亜硝酸が消えていい野菜になるという事です。

それで今EM菌として使っていると、微生物というのは全部死んじゃうのじゃないか、要するに温度が上がりますと微生物は死ぬと、だから悪い水でも100度の熱湯になれば微生物は死ぬから飲める水になると僕らの小さい頃には聞いていたんですが、今はそういうことは言えないような状態になりましたね。例えば粘土にEM菌を入れてそしてミックスして寝かしておいて、それをセラミックに1,200度位で焼いてその焼いた粉を生ゴミにかけると発酵してくるんです。こんなことは考えられん世界なのです。

こちらの方では瓦屋さんも見えますね、瓦の粘土の中にそういうものを入れるとか、例えば一番よくわかるのは、お花を生ける花器ですね、ああいうのを作って、全部塗らないで中の方は素焼きにしておいて、その中に花を入れると、もう育ちから色のつやから水のくさり具合からは全然違ってきます。そういうように、1,200度で焼いてもそういうパワー的なものが残っている。

情報の世界というのか、まだちょっと解明できないような世界ですね。まあ非常に厳しい追及をこれからしなければいけないなと思っているのです。

これは自然に作ったお米です。もう6年も7年も前になります。これは化学肥料で作った米です。これはドロドロになっちゃうんです。同じ日に入れたもの。だからこういう化学物質を吸うとこういう状況がおきます。自然のミネラル分とかそういうものを吸収した米はこういうふうになる。だから病人が増えるのは当たり前の話であって、こんなものが毎日食べてすぐ消化して出すけれども、だんだんこういう物ばかり食べているから、だんだん汚れてきて体の中の生体までおかしくなってくる。僕は今まで経験した上では本当の健康で安全な食べ物とはどういうものであるかということをもう一度研究しなおす必要があるのではないかなあと 생각합니다。

今化学肥料農薬だけでなしに、酸性雨の問題がものすごく大きいのです。夏場の時の何日も雨が降らない時にいきなり夕立みたいに雨が降ってくるとその時の酸性雨というのはすごい酸性が強いです。その原因を作ったのは人間ですけれども。だから土全体がもう化学肥料を使わなくても酸性雨によって土が冒されてきているというのも事実です。それを復活させるための起爆剤として使うのがEMなんですね。EMというのは有効微生物 (EM = E f f e c t i v e M i c r o - o r g a n i s m s) の頭文字をとってEMというだけであって、どこから持ってきたわけでもなくて、自然界にある蘇生型の微生物ばかり集めて作ったものがEM菌なんです。これは舐めても害はありません。飲んでも害はありません。けれどもそれに使っている材料が問題を起こす場合があるものですから、一頃よく飲む人がおる、便通が良くなったとか何とかと言って、よく飲みまして売れすぎて困ったのですが。これは材料が問題を起こす場合があります。そういうふうにしてひとつの微生物をいかに自然の土の中に入れる、そしてまた僕は雑草を応用するというのは、雑草はその土のバロメーターとして出てくるのが雑草なんですね。一般の土手に生える雑草と大根を毎年毎年作っていてそこに出てくる雑草とは雑草の中身が違います。これはなぜかということ、人間も動物も植物もすべてのものが子孫を繁栄をやっているわけですね。だから大

根の子孫も繁栄するために財産を残すわけですね、根っことか葉っぱとかを。それが中に入っている土に変えていこうと努力をしているのに、大根は連作障害が起きて何年も作れない、これは自然に反しているからそうなるわけです。僕の所はもう何年も連作すればするほど土が大根にふさわしい土になってくるというやり方をやっております。だから連作障害というのは反自然的であるということですね。それからもうひとつ、そういう食べ物を食べる時に一番健康でなきゃいけないというのは何かというと、僕は医学のことはわかりませんが、例えば太陽があり、月があり、地球がありますね。今日も潮干狩りでもものすごく知多半島の方は大勢の方が入っておられたのですが、今日は引き潮でもものすごく大潮でいい時期に入ってきたそうなのですが、なんで時間通りに何時何分から満ちてくるとか何時何分から引いていくなんで。本当に月の関係があるとか何とか色々ありますけれど、狂い無くきちっと来るわけですね。その時間に。これは宇宙の構成が狂っていないということですね、第一に。構成が狂っていないからその満ち潮引き潮もきちんとして来るし、春夏秋冬も必ず来る。春夏秋冬が来るから春に種蒔いた夏の光合成を受けて秋の実になる。

地球の4分の1しか陸地がないわけですがけれども、4分の1の中にツンドラ地帯から南極北極の、物のできない所もありますけれども、その中に60数億の人間が暮らして生活しているわけです。1年作れば5年食えるというわけではないですね。1年にとって全部消費しちゃってまた次の年とれると。けれども自然に狂いがないから安心して物が作れるわけなのですね。この宇宙の構成は狂っていない。そのとおりに人間も小宇宙と言われるし、土の中の生態も小宇宙なんですね、本来からいくと。だから自然のリズムに調和していかなければならない。よく自然と共生すると言われておりますけれど、人間様えらい立派な人になってしまったなあとは僕は思うんですが、そうじゃなくて自然に順応していかなければならない。自然の生態系の狂わない所から出てきたものをそして人間もそれに合った食生活をすることによってそして本来の姿に生態がきちんとして循環システムの中で生きていかなければならない。ということが一番重要だと思います。

化学肥料が生態を崩してしまいます。郡上の高鷲村という所があります。ここは「白三つ」というのですが、「(スキー)雪の白」「牛乳の白」「大根の白」、大根の名産地です。それが大阪市場に行くと3割ぐらい高く売れたんですね。今、この前も岐阜県の県会議員の方々が見に行かれた時に、「この大根、よう食べん」といわれた。なぜかという一町歩あれば一町歩の中に全部ビニールをひきます。その中に毒ガスを入れるのです。殺菌しちゃうのです。いい木も悪い木も。あとでりんごかじってポンと放って置いたってなかなか腐敗していきません。かじった後が残ったまま。そのくらい菌がいなくなるんですね。その中で化学肥料入ただけで作っているのが大根なんですね。こんな大根ですね。それを僕が環境浄化すすめの会の関係で生ゴミの指導に行った時に怒られましてね、そういうことは言わないでくれと言って止められました。じゃあしょうがないから、北海道の例を出しました、北海道はジャガイモ、玉葱もいい加減の大きさになると全部除草剤を撒きます。省力化の問題ですね。これをみんな食べとるわけですね。

こういう今悪循環の生活をみなさんその中で生きておられるんでたいしたもんなんだなあと思います。

水というものはどういうものか、火というものはどういうものか、土というものはどういうものかと言って今科学が進んできて顕微鏡が進んできてずっと見るけれど、乳酸菌が10年程前に聞いた時には40種類と聞いた、今は80種類と言われる。1年過ぎるごとにまた発見されているんです。わからない。けれども、一番大切なことはいろんな菌がいっぱい居るけれどもそれに対する抵抗できる免疫性を作るということですね。免疫のある人間の身体にするとということとは自然のリズムから離れたら絶対それは成り立たないということですね。だからそのためには自然のいい物を食べるということが一番回復のもとになるのではないかなと思います。

時間がきまして十分な話が伝えられなかったと思いますが、一度知多半島はすぐ近くですから是非一度寄ってください。どうもありがとうございました。

次回例会案内／4月30日(水) 「休会」  
次々回例会案内／5月7日(水) 「地区協議会報告」